

ヨブスマソウ

Cacalia hastata var. orientalis

キク科

名前の由来

大きな三角の葉が夜衾（夜具）の掛け布団に似ていることから由来するという説や、またヨブスマとはコウモリやムササビの地方名で、葉の形が翼を広げて飛ぶ姿に似ていることからついた名前だという説もある。山菜として若芽はボウナ、ホンナとよばれている。漢字名：夜衾草

形態的特徴

大型で高さ1~2.5mになり、よく大きな群落をつくる。茎は太いが中は空洞になっている（中空）。葉はほこや飛んでいるコウモリにも似た三角形で（三角状腎形）、縁に細かい鋸歯（ギザギザ）がある。花（頭花）は白色だがあまり開かないので目立たない。茎の上部に多数の花がばらけてつく（円錐花序に多くの頭花をつける）。

類似種：特に無い。



ヨブスマソウ



ヨブスマソウの花



ヨブスマソウの若芽



ヨブスマソウ。三角形の葉が飛ぶコウモリの姿にたとえられる

生活サイクル

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
開花期				■								
結実期					■							

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チヨウ

樹木

草花
(在来種)

草花
(外来種)

哺乳類

鳥類
(水辺)

鳥類
(草原・樹林)
ワシ・タカ

生育環境・分布

平地～山地のやや湿った林内や原野で生育する。

分布：国外分布は、温帯から寒帯に生育し、南千島、朝鮮、中国東北部、樺太、カムチャツカ。

国内分布は、北海道と本州の北関東以北。

北海道内分布は、全道。

十勝地方では、平地～山地のやや湿った林内や原野で見られる。



ヨブスマソウ。よく大きな群落が見られる

生活史

開花時期：7～8月

寿命：多年草。

開花までの年数：不明

他生物との関わり

花には虫が訪れる。

興味深い話

■5月頃にはえる若芽が食用になる。やや苦味があるが、ゆでてよく水にさらし、おひたし、あえもの、汁の具にしたり、生のままてんぷらにしても美味しい。

■群生することが多いが、1カ所から全部採取することは避ける。

■足寄（アイヌ文化では釧路地方の文化圏）などのアイヌ語では「ワッカクトウ」という。

■他の地方のアイヌ語では「ワッカクツタル(水・筒(茎))」と呼ばれる。アイヌの人達はヨブスマソウの空洞になる茎を利用して、蒸し焼き容器や水飲み用の道具として用いたという。

■穂別・千歳地方などでは、チレックツタル（我々が・鳴

らす・筒(茎))と呼び、枯れた茎を1cmちよつとに切って、吹き口を斜めにして吹き鳴らしたという。

■トウレブ（オオウバユリ）からでんぷんをとる際、鱗茎をついてドロドロにして木綿袋でこす。このでんぷんをワッカクツタル（ヨブスマソウ）の茎へ流し込んで、たき火の上に置き、蒸し焼きするのだという。



ヨブスマソウ。若芽



ヨブスマソウ

配慮事項

生育している環境全体が重要である。

参考文献

「北海道植物図譜」滝田謙讓 自費出版 2001

「日本の野生植物 草本Ⅲ」佐竹義輔・大井次三郎 他 平凡社 1981

「新版 北海道山菜図鑑」佐藤孝夫・小林隆正・久保秀樹 亜璃

西社 2002

「アイヌ植物誌」福岡イト子 草風館 2000

「知里真志保著作集 別巻Ⅰ 分類アイヌ語辞典 植物編・動物編」知里真志保、平凡社 1976

魚類

底生動物

両生類
爬虫類

トンボ

チョウ

樹木

(在来種)
草花

(外来種)
草花

哺乳類

(水辺)
鳥類

(草原・樹林)
鳥類
ワシ・タカ